

がん罹患者にかかわる方対象 「寄り添い方」オンラインセミナー 動画コンテンツ版ご提供スタート！

新たながん罹患者の約3人に1人が就労世代と言われている時代。いざがん罹患者と接することになった際、どのようなことに心を配ればよいのか。がん罹患者にかかわる方専門のカウンセラーが、教材や具体事例を用いて丁寧に解説します（次頁の実施事例参照）。この度、動画コンテンツ版のご提供も開始しましたので、参加者の皆様のご都合に合わせた受講が可能になりました。組織内教育や両立支援の取り組みの一環としてもぜひお役立てください。

パターン

以下よりご希望に合わせてお選びいただけます。

- ①企業・団体等の従業員向け
- ②医療機関の医療従事者向け
- ③がん患者支援団体などにかかわるピアサポーター向け

時間

1時間

内容

- ・やっていませんか？ こんなコミュニケーション
- ・嬉しかったかわり、辛かったかわりの事例紹介
- ・傾聴、受容、共感の重要性
- ・「寄り添い方に関するアンケート」結果のご紹介

費用

10万円 ※参加者が500名を超える場合は別途相談

データ形式

MP4ファイルにてご提供

教材

「寄り添い方」ハンドブック
※PDFにてご提供します



【講師】花木裕介（一般社団法人がんチャレンジャー 代表理事）
産業カウンセラー／両立支援コーディネーター

2017年12月、38歳のとき、中咽頭がん告知を受け、標準治療（抗がん剤、放射線）を開始。翌8月に病巣が画像上消滅し、9月より復職。2021年2月、局所再発により標準治療（手術）を実施。現在は経過観察中。

2019年2月、「青臭さのすすめ ～未来の息子たちへの贈り物～（はるかぜ書房）」を出版。

厚生労働省委託事業「がん対策推進企業アクション」におけるがんサバイバー認定講師。千葉県がん対策審議会専門委員。

お問い合わせ・お申し込み

一般社団法人がんチャレンジャー 事務局

<https://www.gan-challenger.org/contact/>



～人が人に寄り添う社会づくりに貢献する～

一般社団法人

がんチャレンジャー

がん罹患者にかかわる方向け 「寄り添い方」セミナー

2020年10月6日（火）、サッポロビール株式会社様（所在地：東京都渋谷区）の本社会議室にて、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」の定例会合が開催されました。その中で、がんチャレンジャー代表の花木裕介（中咽頭がんサバイバー）より、ピアサポートのさらなる促進の一助としていただけるよう、「寄り添い方」セミナーを、会場およびオンラインでご参加の皆様にご提供させていただきました。



日時/10月6日 15時30分～16時30分
場所/サッポロビール株式会社本社

▲ 参考資料として、「寄り添い方」ハンドブックを活用しました。

当日のプログラム

- がん宣告時の嬉しかった、辛かったかかわり
- 治療中、復職後の嬉しかった、辛かったかかわり
- ピア・サポーターとして大切にしていること
- 「カウンセリングマインド」で寄り添うということ



セミナーの様子

参加者の皆様からのご感想 ※一部抜粋

Vol.1

寄り添うときのポイントとして、「一定の距離間」、「求められたときに答える」、「『何かあったら言ってね』というひと言」など、学ぶところが多くありました。そしてそれを実行するには、意識していかなければならないと思いました。

様々な不安、言われて嫌だったことなど実体験を語っていただき、自分ごと、とても身近なこととして聞くことができました。特に「辛かったかかわり」からは、自分自身もっと想像力を働かせて相手に接していかなければと思いました。

自身が辛いときに、嬉しくなかった周囲の言動に、最も興味が惹かれました。このときの罹患者の気持ちを、どうやって押し付けずに周囲の方々に伝えるかが、サバイバー・サポーターの役割だと思いました。

全体を通じて非常に分かりやすく、思いの伝わる内容でした。特に、「嬉しかったかかわり」と「辛かったかかわり」の部分は、当事者としてその通りだと頷ける内容であると共に、一般社員にも広く伝えていきたいことと認識しました。経済的な影響と生活改善策は、社内でもあまり出ない話であり、大いに参考になりました。



38歳での罹患とお伺いしましたが、自分がその年齢で罹患したらどういった行動や考え方をしていたら良かったかと考えるととても想像できません。

がんだと分かった時のショックは計り知れなかったと思います。それでも家族の応援、待っていてくれた人の応援を得て、前を向き新たな行動につなげられているのは、とても素晴らしいと思いました。

がん罹患者の気持ちは人それぞれだと思います。百人いれば百人違いかもかもしれません。でも、花木さんの活動により、少しでもがん罹患者の気持ちが安らぐのであれば、とても素晴らしいことだと思います。これからも不安を抱えているがん罹患者のために一人でも多く寄り添っていただき、勇気を与え続けていただきたいと思います。

冒頭の、「がん罹患者して、行動力が上がった」という言葉は、気持ちよく響きました。がん罹患者したとき、「公表してもいいんだ」と思える社会が訪れることを強く願います。

復職後、まさに花木さんご自身が「がんチャレンジャー」だったんですね。治療中の想いの変化や関わりなど大変分かりやすく、参考になりました。

実施ご担当者様にお話を伺いました！



サッポロビール株式会社
人事部 プランニング・ディレクター

村本高史 様

1987年入社。2011年、人事総務部長当時に頸部食道がんが再発し、手術で患部再建・喉頭全摘。復職後、教室通学を中心とした訓練で食道発声を習得。14年秋以降、創造変革職（専門職）としてコミュニケーション強化等の組織風土改革に取り組みつつ、闘病体験や思いを語る「いのちを伝える会」を社内等で開催。厚生労働省「治療と仕事の両立支援セミナー」基調講演の他、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」の運営も務める。

――今回なぜ「寄り添い方」セミナーを実施したのですか？

「寄り添い方」ハンドブックを読んだところ、がん経験者として心から共感できる部分がとても多いと感じました。直接お話を伺ってさらに理解を深めるべく、社内のがん経験者のコミュニティ「Can Stars」の会合の中で「寄り添い方」セミナーを企画しました。

――「Can Stars」では、ピアサポート（がん患者同士の相互支援）の促進に向けて、普段どのような取り組みをされていますか？

約2ヶ月に1回の会合で、メンバー同士の体験談や思いの相互共有を行っており、体験談はイントラネットで一般社員にも発信しています。最近では他企業と合同のピアサポート研修も開催しました。

――今回、「寄り添い方」セミナーを実施してみて、今後どのような効果が期待できそうですか？

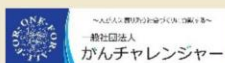
花木さんの実際の経験の中でどのようなかわりが嬉しかったか、逆につらかったか、大きく共感すると共に具体的に理解できました。一般社員にもぜひ分かってもらいたい内容であり、今後、イントラネットで伝えていきたいと思います。また、がん経験後の花木さんのチャレンジからは、参加メンバーにとって元気と勇気をいただきました。

――今後の「Can Stars」の抱負をお聞かせください。

「Can Stars」は今後もメンバー同士のピアサポートや体験、思いの社内発信を中心にしながら、他企業の同様のコミュニティやがん経験者とも協働・連携を広げていきます。一人でも多くのがん経験者が働きがいや生きがいを増し、一社でも多くの企業が活力を増し、よりよい社会に向かっていく礎となれるよう、元気に活動してまいります。



制作・発行



- 法人名 一般社団法人がんチャレンジャー
- 代表理事 花木 裕介
(産業カウンセラー、がん対策推進企業アクション認定講師)
- 設立年月 2019年11月
- 所在地 千葉県柏市
- HP <https://www.gan-challenger.org/contact/>

■ 主な事業内容

- ✓ がん罹患者の周囲の関係者、及び本人が良好なコミュニケーション手法等を学ぶためのセミナー、研修の企画・実施等教育事業
- ✓ 良好なコミュニケーションや心身ともに円滑な社会復帰におけるモデルケース等に関する情報提供および出版等による発信事業
- ✓ 心身ともに円滑な社会復帰に向けた書籍出版支援および記事作成支援事業 ほか

※ 本内容に関するお問い合わせや、セミナー、ハンドブックなどに関するご質問などは、HPよりお問い合わせください→

© 一般社団法人がんチャレンジャー, All rights reserved.

